

ややこしい
ややこしい

～スコップと
ショベル～

芳田尚哉

「おい、そのスコップとってくれへんか」

男が若い男に言った。

「スコップですか？ なにに使いますの？」

「なにってお前、ガーデニングや、ガーデニング。今、流行っとんのとちゃうんか？」

「ガーデニングって、兄さんがですか？」

若い男は、あまりにもイメージからかけ離れた発言に笑いそうになる。

「なんや。わしがガーデニングしたらあかんのか？」

「そんな事あらへんけど。……って、スコップでしたっけ。どうぞ」

若い男はスコップを男に渡しなが、

「それにしても、ガーデニングでスコップってなにしますの？」

若い男は先が平らになった大きなそれを見る。

「お前、なに考えとんねん。こんなもんでガーデニングできるか。小さいのあるやろ」

男はスコップを突っ返す。

「スコップで小さいのんってありましたっけ？ ちょっと待ってくださいや」

若い男はスコップを探す、やはり見当たらない。

「やっぱりありませんって」

「あるはずやぞ」

「ああ、これですか？ なんでこんなもんがあるんですか？」

若い男が見つけたのは、小さい子が砂場遊びで使うようなプラスチック製のものだった。

「お前おちょくっとんのか。こんなガキンちょが遊ぶようなもん、どうないせいちゅうねん」

「兄さん、そう言われても、それしかあらへんのですわ」

「嘘こけ。自分で探すわ」

男は自分で探し始める。と、すぐに目当てのものを見つけた。

「あるやないけ」

男はそれを若い男に見せつける。

「お前の目は節穴ちゃうんか。こんなもんもわからへんのか」

男は少しバカにするように言う。

「兄さん、それスコップちゃいますやん。ショベルですやん」

「スコップやろうが。なに言うてんねん」

「兄さん、土とかをすくって乗せるんがスコップですねん。すくしやすいように、先が平らになっとるんですわ。で、土を掘ったりするんがショベルですねん。掘りやすいように先が尖ってますんや。別物でっせ」

「なにごちゃごちゃ言うてんねんや。わしが欲しかったんはこれや」

「せやったら、最初からショベル言うてくださいや」

「わけわからん事言うなや。わしは昔から、スコップ言うとったで」

「そういう地域があるんかもしりませんが、厳密にはちゃうんです」

「うっさいわ、ボケ」

男は捨て台詞を吐いて、土をいじり始めた。

「……………」

やれやれと、若い男はため息を吐いた。

F i n o .

ややこしいややこしい～スコップとショベル～

<http://p.booklog.jp/book/110252>

著者：芳田尚哉

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/studiosaix/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/110252>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト